

## 河川に生息する生物の確認状況 (河川の自然度・健全度)

ここでは河川に特有な砂礫河原に生育する群落の確認状況を整理しました。なお、前回、前々回調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしか見られない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

## 植物からみた河川の現況

### 【砂礫河原に生育する植物群落 (カワラヨモギーカワラハハコ群落) の分布状況】 (植物調査)

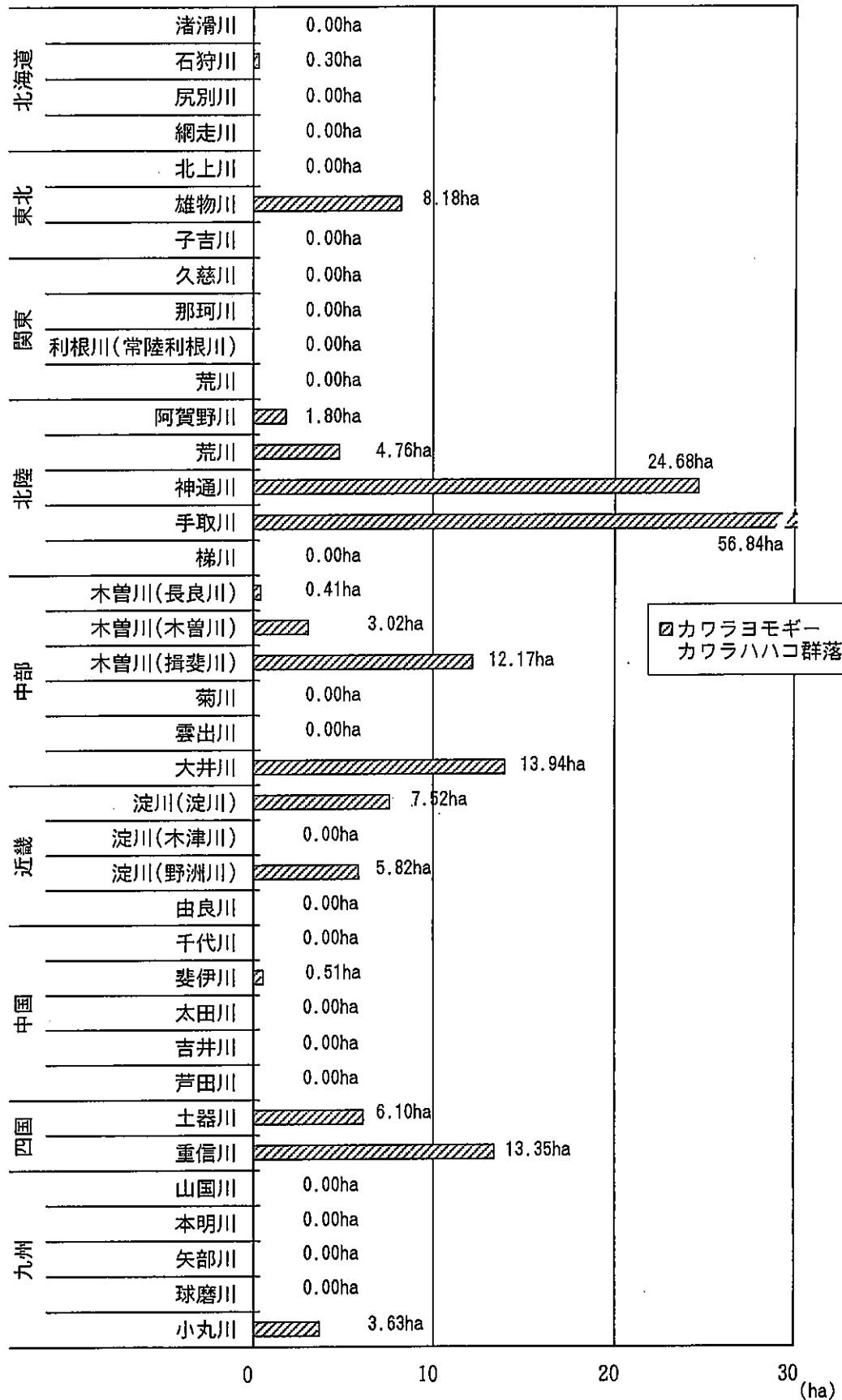
- カワラヨモギーカワラハハコ群落が多く確認された河川は北陸地方の神通川や手取川  
河川環境の特性を把握するために、砂礫河原に生育するカワラヨモギーカワラハハコ群落の分布状況を整理しました。

今回とりまとめを行った 38 河川のうち、カワラヨモギーカワラハハコ群落が確認された河川は北海道地方から九州地方までの 16 河川で、最も全植生面積に対する構成比が高かったのは北陸地方の手取川の 9.0%で、分布面積も 56.8ha を占めました。

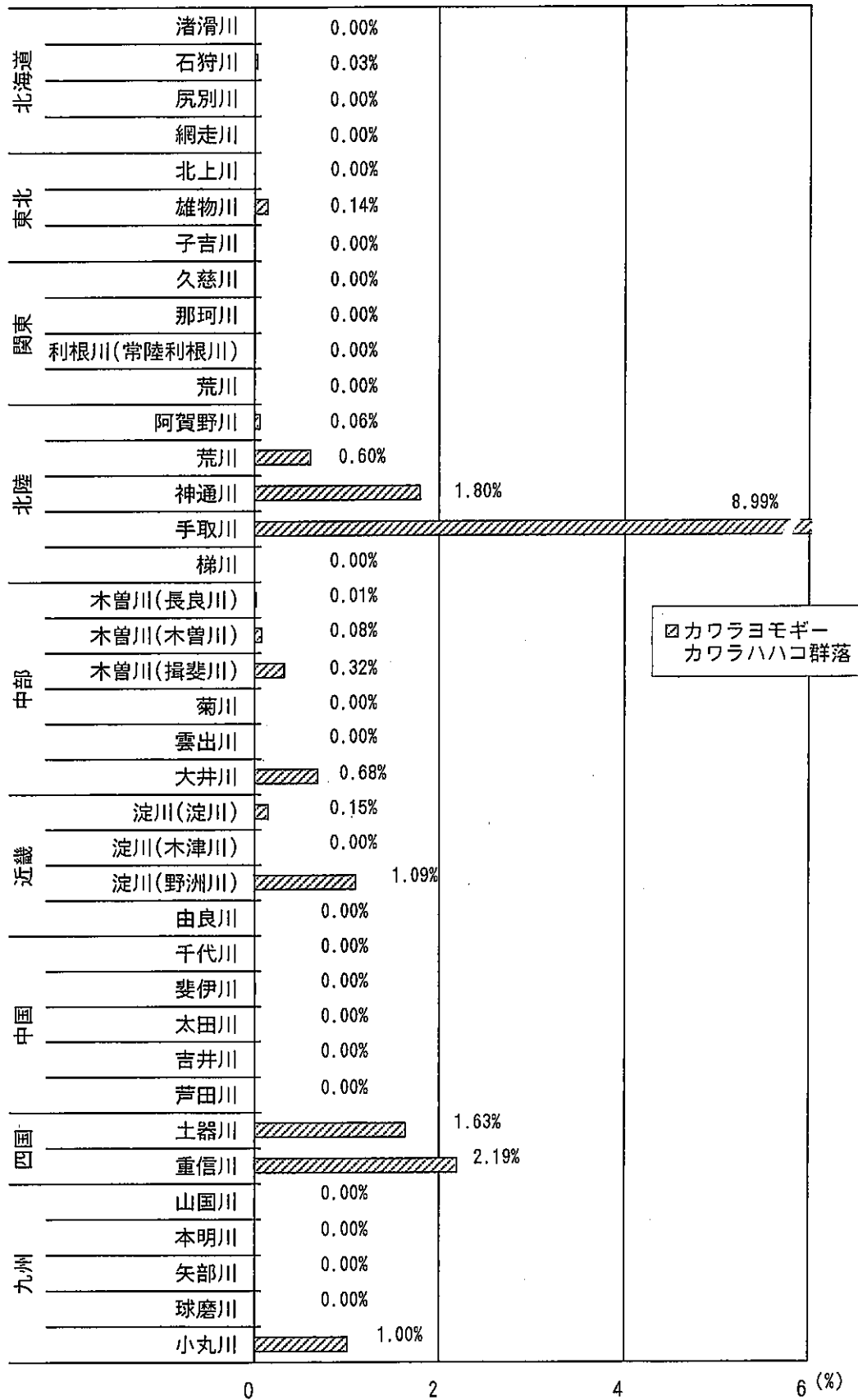
(資料掲載: 3-9~3-10 ページ)

カワラヨモギは乾燥した貧栄養の砂地の河原に生育する植物です。また、カワラハハコは、主に河川の上流から中流の砂礫地に生育する植物です。

今回とりまとめを行った 38 河川において、カワラヨモギーカワラハハコ群落が分布していた河川は北海道地方から東北地方までの 16 河川で、半数以上の河川では分布していませんでした。これらの群落が分布していた河川のうち、その全植生面積に対する構成比が高かったのは北陸地方の手取川や四国地方の重信川でした。



砂礫河原に生育する植物群落の分布状況（面積）



砂礫河原に生育する植物群落の分布状況（構成比）